

令和5年度 栃木県立宇都宮清陵高等学校 学校自己評価

今年度の重点目標

- 1 進路実現を支える学力の向上及び自ら学ぶ態度の育成。
- 2 主体性と協働性の涵養。
- 3 本校の特色化・魅力化の推進。

達成度

- A: 十分満足できる
- B: 概ね満足できる
- C: 満足できない
- D: 努力を要する

※上記の4段階を基に、各領域において達成基準を作成

◇重点目標 1. 進路実現を支える学力の向上及び自ら学ぶ態度の育成。

領域	具体的な教育活動	達成状況	達成度	次年度への課題	
部	教務	○タブレット端末を利用する機会を増やすため、各教科等で有効的な活用法の検討を図るための支援をする。 ○情報機器の更新を含め、ICTの利便性の向上を図る。	・生徒用タブレットの利活用に関する校内研修を実施した。 ・タブレット端末の活用において、教科によって向き不向きがあるが、活用は広がっている。また、学年等や各種アンケート、学校評価など授業以外でも活用できた。	B	・生徒がタブレットを使用して個々のレベルにあった学習ができるよう、学習指導部と連携していく。また、引き続きICT機器の有効的な使い方を模索していく。 ・情報機器や生徒タブレット端末の管理を、さらに図っていく。
	学習	○ICT機器等を活用した学習及び他者と協働した学習の機会の創出と実践支援。 ○日々の学習サイクルの定着及び自主学習の実践指導。	・ICT機器を活用し、学習させる準備を次年度に向けて着実にこなっている。	B	・来年度から朝の学習の時間が無くなる。うまく機能していなかった点を踏まえ新たな、自主学習に向かわせる工夫が必要。学習指導部としてスタディサブリの導入など積極的取り組みを行う。
	進路	○ICT機器等を利用して進路について調べ学べる環境を整える。 ○各教科と連携し、課外・模試等を通して、進路実現に生徒が主体的に取り組めるよう支援する。	・上級学校調べ等において、ICT機器を利用し、上級学校のオープンキャンパス、入試情報等を調べた。 ・各教科の連携のもと、課外・校内模試を実施することができた。 ・進路実現にむけて面接・小論文の指導を組織的に実施できた。	B	・入試の募集要項や大学の情報等をICTを活用し調べられるようにする。 ・平日課外・土曜課外の内容・実施方法の検討を行う。
	図書	○時期に応じた図書を充実させ、利便性の向上を図る。 ○読書場・学びの場としての環境整備に努める。	・昼休みを中心に来館者が増加し、貸出数も増加しつつある。 ・図書委員が図書館クエストやビブリオバトルなどに意欲的に参加し、蔵書点検でも活躍した。 ・マナーの向上が見られた。	A	・図書館行事への参加者を増やす、本の貸出冊数を増やす、図書館への来館者を増やすような取り組みをしたい。
	健康	○欠席等の減少に向け、生活習慣の質向上について随時注意喚起する。 ○生徒理解のため、教職員間の情報交換・共有機会の拡充を図り、早期発見、早期対応に努める。	・保健委員会でストレスについて調査しその結果や対策法を昇降口に掲示するなど健康的な生活について啓発することができた。	B	・欠席、保健室利用者の延べ人数を減らすために、人間関係の悩みなどを早期に発見対応できるように引き続き、連携を強化していきたい。
学年	1学年	○学習方法の確立を図る ○自学自習の習慣化を図る ○基礎学力の定着と思考力の育成を図る。	・自学自習の習慣化のできている生徒は少ない。基礎学力の定着、思考力は不十分。	C	・次年度は朝の学習がなくなるが、別の形で自学自習を促す手段を考える。
	2学年	○朝の学習や放課後における教室、図書室の利用を促し、学習時間を確保するとともに「やればできる」を実感させる。	・定期試験前や小テストは意欲的に学習に取り組む生徒が見られた。 ・生徒間で朝の学習への取り組みにかなり差があり改善できなかった。	B	・図書館利用なども促進し、日常的に学習に取り組ませたい。 ・朝の学習の時間(朝の学習は廃止)を有効活用する方策を検討する。
	3学年	○教科や部活動顧問と連携や面談を通し、有効な進路指導を行う。 ○放課後の自習室や教室の利用を奨励し、学習を支援する。 ○未来手帳やClassiを利用し、学習計画を推進する。	・面談等を通して、有効な学習指導や進路指導を充実させることができた。 ・未来手帳等を利用することで、計画的に学習に取り組んでいた。	B	・自習室や図書室の利用者が少ない。 ・家庭学習時間が不足しており、もっと奨励する必要性を感じる。
教科	国語	○学習指導部と提携し漢字コンクールの事前事後の指導を充実させる。	・11月には95%の合格率が出るなど、生徒の成功体験は十分積ませた。科内では方法論議などに知恵や時間を出し尽くした。年度初めに存在した怠惰な生徒は減少した。夏以降は学習障害的な要素により得点できない面を分析し、不合格者の勉強会で親切に指導している。	A	・学習指導部行事であり、スタディサブリ導入後には漢字コンクールのあり方は変更されると思われる。教務部や学習指導部と話し合いを進めたい。
	地歴公民	○四大受験までを見据え、授業に入試問題等を取り入れる。 ○主体的に問題を解き、進路意識を高め、深い学習に結び付けさせる。	・定期テストや校内模試において大学入試問題を活用することが出来たが、主体的に取り組む生徒をもっと増やす必要がある。	B	・生徒の意欲向上につながるような大学入試問題の活用法を研究する必要がある。やれば出来そうだと感じてもらいたい。
	数学	○目標や指示を明確にし、主体的に考え表現する活動を充実させる。 ○問題を精選し、ICTを活用するなどして指導法について工夫する。	・ノウハウが蓄積され指導内容を精選して、指導することができた。計画通りに指導でき、生徒の理解度も概ね良かった。学習内容の増加に伴い、進度がギリギリの科目もあった。	B	・学習内容の定着が不十分な生徒が多い。単元によっては、主体的に考えることが難しい場合もある。 ・ICTなどを活用した指導法について研究を進めていく。観点別評価の充実。教科打合せの活用。

教科	理科	○興味関心が湧く実験・観察や調べ学習・発表など思考力・判断力を育む機会を多く設ける。更に、実験・観察の過程や結果に基づく考察や図表・グラフを読み解く演習に取り組ませる。	・授業や実験の中で考えさせる機会を増やすことができた。また、定期考査で実験結果から考察するような問題を出題できた。	B	・学習に対して主体的に取り組む姿勢をどのように身につけさせるか。実験・観察の時間と問題演習のバランスをどう取るかが課題である。
	保健体育	○補助教材を活用し、基本技能の確認やルールを理解を深めさせる。 ○仲間との協同、連携の大切さを意識した言動をうながし、ゲームを通して、運動の楽しさを体験させる。	・基本的なルールを概ね理解し、上級生は生徒間で協議しながらリーグ戦など実施し、楽しく活動することができるようになった。	B	・人間関係などによって活動内容、活動量に大きな二極化が見られ、授業展開において様々な仕掛けを検討し、実践していきたい。
	英語	○実用英語技能検定試験の校内での実施回数を増やし、生徒に受験機会を与え取り組ませることで、生徒の英語力の向上につなげる。	・実用英語技能検定試験を校内で3回実施し、検定を取得するメリットについても伝えて指導した結果、昨年度よりも多くの生徒が検定を受験し合格することができた。	B	・2024年度から検定の問題が一部リニューアルされ、問題の難化が予想されるので、対策の指導を工夫し、引き続き生徒の英語力の向上につなげていきたい。
	家庭	○各分野を総合的、体系的に捉えることで家庭生活や社会生活に関する問題を提起し、自ら考える力を身につけさせる。 ○体験活動を取り入れ、実生活に応用できる力を身につけさせる。	・実習等の体験活動を多く実施することができた。	B	・実習室でタブレットの使用が可能になったので、ICT機器を多く取り入れていく。
	科学技術	○実験・実習を通してものづくりの楽しさを理解させ、レポート作成を通して科学的に探求する姿勢を育成する。 ○上級学校や校外施設と連携した学習機会を設ける。	・SLTは芸術科も加わり、より多彩な視点で話題提供ができた。 ・宇都宮大学との連携授業に加え、県央産業技術専門校の出張授業が学年単位で実施できた。 ・HPJにも外部機関との連携や授業の様子を公開できた。	A	・引き続き外部機関との連携を継続しながら、県産業技術センター見学等の連携を拡充させるとともに外部への発信を強化していきたい。
	情報	○授業に使用するGIGA端末の管理を含め、実際に情報処理や表現技術を学ぶことで、他教科や学校生活等にも生かせるICT活用能力を育成する。	・3年は実習を中心に情報処理技術の向上、1年は座学を中心に知識と技能の向上に努めた。授業ではTeamsで課題配信等を行った。 ・GIGA端末の不具合等についてICT支援員への相談を促すなど、管理について助言した。	B	・次年度は、共通テストに情報Ⅰが出題される初年度であるので、課外等も含め、対応を考えていく必要がある。

◇重点目標 2. 主体性と協働性の涵養。

領域	具体的な教育活動	達成状況	達成度	次年度への課題	
部	生徒	○交通ルールの遵守・交通マナーの向上と交通事故の防止。 ○ネットトラブルの防止に対する意識の向上。	・随時、臨機応変に指導してきたが、まだ改善の余地がある。	B	・交通の指導内容にLRT関連も加え、指導充実を図る。 ・ネットトラブルについても継続指導とし、生徒会と協働して規範意識を育む。
	特活	○各行事・部活動において、生徒が仲間とともに自主的・積極的に参加し、活発な活動となるよう計画・活動支援をする。	・部活動に積極的に参加する生徒もいるが、簡単に休んだり、積極性に欠ける生徒がいる。 ・各行事では生徒が自主的というのなかなか難しいが、教員がある程度準備すれば、積極的に参加する生徒が多かった。	B	・部活動に加入するだけでなく、参加率を高め、個人の責任感を高められるようにする。また、部全体の雰囲気として積極性を引き出していく。 ・コロナも明け、通常通り行事ができるようになったため、生徒が前年度の経験から自主的に活動できるように支援する。
	渉外	○保護者と学校が連携して本校の教育活動(学校行事等)を支援、充実させる。	・PTA総会を、WEB上に資料をアップし確認・承認する形で実施した。 ・競技大会の活動内容の充実を図った。 ・研修旅行は参加人数不足、木の葉さらいは悪天候で中止。	B	・研修旅行の実施時期や清陵祭の参加形態の変更、木の葉さらいは2学期に複数回実施等を通して参加者増加を図る。
学年	1学年	○服装容儀、時間厳守、朝の学習等の指導を徹底する。 ○学校行事や学年行事、総合的な探究の時間の中で生徒が主体的、協働的に行動できるよう促す。	・学校生活における生活習慣は好ましい。学校行事や朝の学習の参加状況も良好。 ・主体的、協働的な行動は伸びしろあり。	B	・行事や探究活動の中で生徒の主体性、協働性を引き出すため、教員側が狙いや役割を明確にする必要がある。
	2学年	○さわやかな挨拶、場に応じた言葉遣い、迅速な行動等を通してお互いを認め合い高め合う。	・学校行事や学年行事は前向き、意欲的に取り組んでいた。 ・規範意識が低くなっている。(茶髪、化粧、チャイム等)	B	・成人する年であることを自覚させ、責任感を持たせる。 ・最高学年であるということで学校の中心的役割を果たさせる。
学年	3学年	○服装容疑、時間厳守、朝の学習、スマホの使い方等の指導の徹底。 ○生徒が最上級生として主体的・協働的に行動できるよう促す。 ○出願手続きや面接依頼など、自ら計画し行動できるようにす	・学校行事ではクラスメイトと協力し、主体的に行動できた。 ・多くの生徒は規範意識が高いが、規範意識が低い生徒も一部いる。	B	・朝の学習への遅刻は一部で常連化しており、改善が難しかった。 ・出願手続きや面接依頼などは手取り足取りとなる生徒が少なくなかった。
教科	芸術	○生徒自身の思いや考えを積極的に表現し、達成感を味わえるような授業を展開する。	・実技を通じた自己表現活動は概ね達成できた。芸術分野においての得意分野を生徒自身が理解できておらず、伸ばさせることが難しい。 ・宇都宮美術館学芸員による芸術3科目横断的な授業が展開できた。	B	・ICT機器の効果的な活用をもう少し目指していくとともに、新課程で新しい科目ができるので、進路実現につながる指導を心がけていきたい。

◇重点目標 3. 本校の特色化・魅力化の推進。

領域	具体的な教育活動	達成状況	達成度	次年度への課題	
部	教務	○本校の特色・魅力がより伝わるよう、ホームページの充実や一日体験学習の工夫を図る。	・ホームページにおいては、行事記事や部活動など各所で更新された。しかし、更新されていない箇所もあるのでチェックが必要である。 ・一日体験学習においては、保護者も体育館ではなく教室で説明会を行うなど改善ができた。また、係生徒の発表が好評であった。	B	・ホームページの更新を促す。また、写真掲載の許可・同意は得ているが、生徒の顔がわかってしまう写真が多い。掲載の仕方について周知を図っていく。 ・一日体験学習において、良い点の継続と更なる改善を図る。
	学習	○ICT機器を活用した学習及び大学や企業との連携による実践的支援。 ○教科横断的な取り組みによる実践的教育。	・教科横断的な視点としてSLTを出しているが、感想の記入にとどまっているのではないかと。 ・宇大や県立産技校との連携が図れた。	B	・科学技術教育の再検討。 ・STEAM教育の促進。 ・総合的な探究の時間の充実。探究活動を通し、教科横断的な教育を進める。
	進路	○大学や専門機関等との連携により、進路行事の充実を図り、生徒が主体的に取り組むことで、進路意識の高揚を図る。	・大学・専門学校と連携し、進路行事を計画的に実施できた。	B	・カレッジインターンシップ、職業別分科会等の大学・専門学校の検討。
	特活	○保護者や地域、外部の関係機関との連携や協力を得て学校行事、部活動、ボランティア活動等を実施し、その成果等の情報について積極的に発信する。	・あまりHPを活用できなかった。 ・様々なボランティア活動に参加する生徒がみられた。	B	・生徒会、各部の活動や大会結果などをもっとHPにアップしていくように係として声掛けをまめに行う。 ・ボランティア活動に参加した生徒の様子を内外に発信する。
	健康	○校舎内の施設設備の適切な使用を促すとともに、環境美化への自主的な取り組みができる集団の雰囲気づくりを目指した指導を行う。(ゴミの分別の徹底、清掃活動への意識の高揚)	・ロッカーの上の整理整頓や教室内のごみの分別は概ねできていたが、特別教室や駐輪場などのごみは散乱していることがあった。	B	・美化委員会の生徒の活動機会が少なかったため、次年度は行事以外での定期的な活動を設けていきたい。
	渉外	○生徒会や部活動と連携して行事に参加、HP等でPTA活動の情報発信を行う。	・校内におけるPTA行事の活動報告をHPで実施。PTA研修旅行や木の葉さらいが中止になって活動報告ができないものが生じた。	B	・PTA行事の活動報告をこまめに発信していけるよう、複数の教員が交代でHPに記入する体制を整える。

◆保護者及び生徒アンケート

生徒アンケートでは、どの項目も「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」の合計が80%を超える良好な評価を得た。[重点目標1]に関して、「学力向上」「進路意識の向上」に向けた取り組みについてはおおむね肯定的な評価を頂いているが、教員では昨年に比べ積極的な肯定が減少している。また、「自ら学ぶ態度の育成」に関して、否定的意見が生徒で20%、教員で35%を超えている。定期考査や校外模試の結果等を考慮しても、早急に原因を追究し改善していく必要がある。[重点目標2]に関しては、学校生活全体に主体的・積極的に取り組んでいる姿が伺える。ただ「自ら(クラス、部活動等)の問題として解決する姿」については改善がみられるものの継続指導が必要な状況である。生徒の悩み対応に関して生徒、教員は90%を超える肯定的評価であるが、保護者の「わからない」が30%を超えていることを考慮したい。今後、丁寧な面接、SCの活用、生徒観察を引き続き行い、生徒のバックアップを図る一方、保護者の方に安心して頂けるように家庭との情報の共有を図り連携を強めたい。[重点目標3]に関連する「地域連携」「特色ある教育」「カリキュラム」項目において、生徒・教員では80%以上が肯定的な評価である。一方、保護者においては「わからない」の割合が多い項目となっている。身近な保護者でさえ伝わっていない現実を重く受け止め、特色化・魅力化を進めるとともに「HPでの情報発信」の充実など発信力についても強化することが必要である。

◆学校関係者評価

「探究活動の充実」と「生徒主体の校則の改正」に対して、「学びの姿勢」を身に付けることに繋がりが良いと思う。「生徒が興味を持ち、考え、動き、失敗し、学ぶ」ことで、必要な力の育成になると考える。と複数の参加者から好意的な評価を頂いた。また、保護者アンケートにおいて「わからない」の回答が目立つとあるが、コロナ禍で説明の機会が減ったからではないか。説明の機会を捉えていくことが大切であり、発信することで発展に繋がると思うとのアドバイスを頂いた。その他、授業や清陵祭で垣間見られた「元気な生徒が多い」のが清陵高校の魅力の一つである。更に、今の生徒が何を求めているか考慮し、科学技術教育だけでなく魅力・特色を考えて欲しいとの意見があった。
また、校長先生が毎朝昇降口で生徒に挨拶する姿が教員にも良い影響を与えている。問題行動も問題という程でなく、毎日登校し安全に過ごしていることがありがたいとの激励の言葉を頂いた。一方、小中学校での連絡はペーパーレスになっている。高校でも電子データでの連絡を望むとの声や、部活動等の活動場所にエアコンの設置を進めて欲しいとの要望があった。

◆重点目標における総合評価

評価基準 (1)各達成度に対し、「A:7点」、「B:5点」、「C:3点」、「D:1点」を乗じて点数化する。
(2)点数化した合計点を課題数で平均化(評価点)し下表に従い総合評価する。

総合評価	A	B	C	D
評価点	6.0以上	5.9~4.0	3.9~2.0	2.0未満

重点目標1	重点目標2	重点目標3
B (5.24)	B (5.00)	B (5.00)
希望進路の実現に向け普遍的な目標であり、前年度の反省を踏まえ、どの部・学年・教科においても改善を加えながら継続的な取り組みが行えた。特に検定の推奨や粘り強い指導、授業の工夫により生徒の学習に対する意識変化の兆しや学習行動の改善がみられたものの、定期考査や校外模試の結果はまだ満足できる状況とは言い難い。次年度に向け、個に応じた指導のためのICT機器(タブレット)の活用や朝の学習・課外授業・放課後学習支援の在り方についての検討が急がれる。	コロナ感染症による学校行事や部活動の制限が緩和され、積極的に活動している生徒が多く見られた。コロナ禍で継続できなかった行事であっても取り組みに学年ごとの成長が見られるのは、様々な場面での支援・指導の成果といえる。より積極性が求められる部活動においてはなお一層の支援・啓発が必要である。また、集団生活において必要な規範意識について一部不安な生徒もいる。生徒会と協働し行事の改善、規範意識を育む指導を進めていく予定である。	科学技術リテラシー教育において、外部教育機関との連携が広がった。今後も進路指導や特別活動において地域や外部機関との連携をとり、充実した教育活動を展開したい。情報の発信はHPを通し積極的に行っているが、ボランティア活動や校外活動など発信されないものもあった。余すところなく本校生徒の魅力を伝え、理解が広がるように広報活動に力を入れる必要がある。また、保護者へ学校の情報が正しく伝わるように一斉メールの活用も考えたい。